

令和5年度 地域間幹線系統に関する事業評価

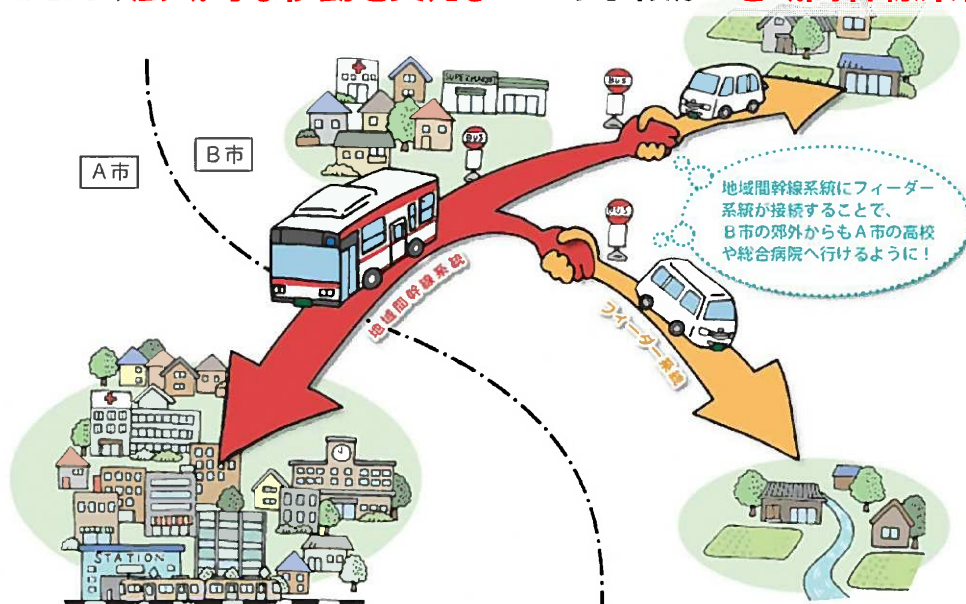
静岡県交通基盤部都市局地域交通課

富国有徳の理想郷—しずおか
ふじのくに



地域間幹線系統とは

日常生活における通勤、通学、通院の流動実態等から、
結びつきの強い市町の組み合わせを**交通圏**として設定。(出典：中部運輸局「中部の交通圏」)
圏内や圏域を跨ぐ**広域的な移動を支える**一つの手段が「**地域間幹線系統**」です。



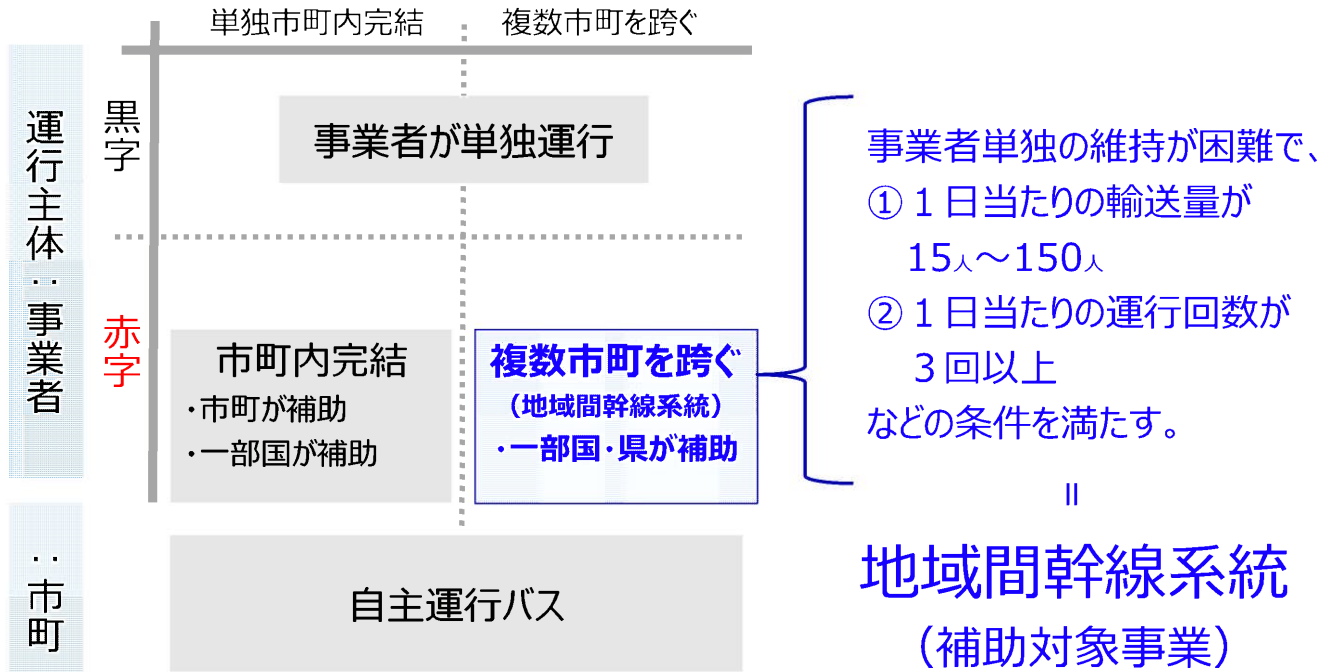
出典：地域間幹線バスが地域で役立つようにするために(監修：中部運輸局)

富国有徳の理想郷—しずおか
ふじのくに



地域間幹線系統に係る国・県の補助対象事業

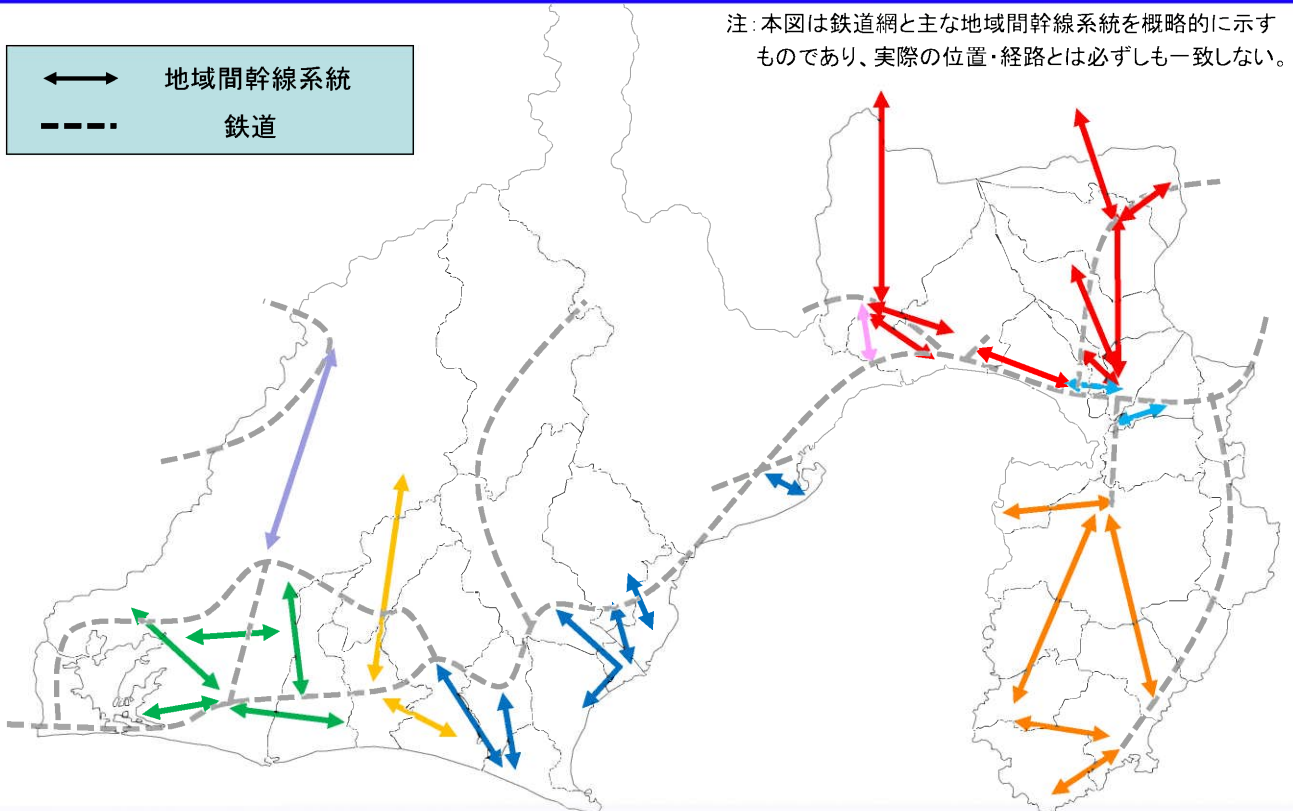
収支から見る乗合バス事業の全体像と幹線系統の位置付け



富国有徳の理想郷—しずおか
ふじのくに



県内の地域間幹線系統(概略図)



富国有徳の美しい“ふじのくに”
静岡県



地域間幹線系統の評価(なぜ評価を行うのか)

- 補助対象事業が適切に行われているか確認する
- 評価結果を分析し、事業改善に繋げる
- 補助対象事業をより効果的、効率的に実施するため

(参考) 事業評価実施の根拠

地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱

第3条

5 協議会※は、補助対象事業ごとに補助対象事業について評価を行い、その結果について地方運輸局又は地方航空局の長に報告しなければならない。

※本県においては静岡県生活交通確保対策協議会を指す。

富国有徳の理想郷—しずおか

ふじのくに

4

静岡県の地域間幹線系統評価基準

次の項目を点数化し、合計点をA・B・Cで評価

項目	評価する内容	評価
①運行回数	計画値に対する実績値	計画数以上：3点 計画数未満：0点
②収支率	実績値	30%未満：0点（5%毎に3点加算） 55%以上：18点（満点）
③乗車人員	計画値に対する実績値	5%超：6点、△5%以上5%未満：3点 △5%超：0点
④ネットワーク構成	鉄道等への乗換可能拠点数	鉄道駅及びバスターミナルでの結節：1箇所2点 その他のバス停での結節：1箇所1点
⑤広域移動状況	市町を跨いで移動する人の割合	5%未満：0点（5%毎に5点加算） 20%以上：20点（満点）
⑥キロ当たり経費	国が示す標準単価との比較	単価以上：0点（△5%毎に5点加算） △15%超：12点
	合計	A評価：52～79点 B評価：26～51点 C評価：0～25点

富国有徳の理想郷—しずおか

ふじのくに

5

令和5年度の評価結果

※詳細は別添

	A評価	B評価	C評価	系統数
山梨交通	0	1	0	1
秋葉バスサービス	4	0	0	4
遠州鉄道	11	8	0	19
しずてつジャストライン	1	10	0	11
富士急モビリティ	3	1	0	4
富士急バス	2	0	0	2
富士急静岡バス	4	0	0	4
富士急シティバス	3	3	0	6
伊豆箱根バス	3	1	0	4
東海バス	6	0	0	6
水窪タクシー	0	1	0	1
合計	37	25	0	62

富国有徳の理想郷—しずおか

ふじのくに

6



評価結果内訳(昨年度との比較)

昨年度に比べ、11系統の評価が向上（平均点は3.1増加）

事業者名	系統名	R4	R5	比較	事業者名	系統名	R4	R5	比較	事業者名	系統名	R4	R5	比較
1 山梨交通	富士急野山線、奥山線、富士急静岡線	B	B	—	20 奥山線	奥山線	A	A	—	42 富士急	曾比奈線	A	A	—
2 秋葉バスサービス	秋葉線	A	A	—	21 志都呂宇布見線	志都呂宇布見線	B	B	—	43 静岡バス	大淵線	A	A	—
3 秋葉バスサービス	秋葉中遠線	A	A	—	22 志都呂宇布見線	志都呂宇布見線	B	B	—	44 静岡バス	大月線	A	A	—
4 秋葉バスサービス	秋葉中遠線	A	A	—	23 浜名線	浜名線	B	B	—	45 静岡バス	大月線	A	A	—
5 秋葉バスサービス	秋葉中遠線	A	A	—	24 掛塚さなる台線	掛塚さなる台線	A	A	—	46 富士急	駿河平線	A	A	—
6 秋葉バスサービス	大久保線	C	—	△	25 三保卓蔵線	三保卓蔵線	B	B	—	47 富士急	須山線	A	B	△
7 秋葉バスサービス	伊佐見線	B	—	△	26 五十海大住線	五十海大住線	B	B	—	48 富士急	須山線	B	—	△
8 秋葉バスサービス	浜北西大三方原聖隷線	B	A	○	27 桃津岡部線	桃津岡部線	B	B	—	49 静岡バス	原線	B	B	—
9 秋葉バスサービス	伊平線	A	—	△	28 藤枝吉永線	藤枝吉永線	A	B	△	50 伊豆箱根バス	桜堤線	B	B	—
10 遠州鉄道	磐田市立病院福田線	B	A	○	29 島田静波線	島田静波線	B	B	—	51 伊豆箱根バス	がんセンター線	B	A	○
11 遠州鉄道	中ノ町磐田線	B	B	—	30 島田静波線	島田静波線	A	B	△	52 伊豆箱根バス	がんセンター線	A	A	—
12 遠州鉄道	秋葉線	C	B	○	31 藤枝相良線	藤枝相良線	B	B	—	53 伊豆箱根バス	大場南線	B	B	—
13 遠州鉄道	磐田天竜線	B	A	○	32 菊川浜岡線	菊川浜岡線	B	B	—	54 伊豆箱根バス	沼津大岡三島線	A	A	—
14 遠州鉄道	磐田天竜線	B	B	—	33 掛川大東浜岡線	掛川大東浜岡線	B	B	—	55 伊豆箱根バス	沼津静浦長岡線	A	A	—
15 遠州鉄道	掛塚さなる台線	A	A	—	34 掛川大東浜岡線	掛川大東浜岡線	A	A	—	56 伊豆箱根バス	沼津静浦長岡線	—	A	—
16 遠州鉄道	内野台線	A	A	—	35 掛川大東浜岡線	掛川大東浜岡線	B	B	—	57 東海バス	石廊崎線	B	A	○
17 遠州鉄道	内野台線	B	A	○	36 御殿場線	御殿場線	A	A	—	58 東海バス	天城峠線	B	A	○
18 遠州鉄道	磐田市立病院福田線	B	B	—	37 駿河小山線	駿河小山線	A	A	—	59 東海バス	戸田線	B	A	○
19 遠州鉄道	引佐線	A	A	—	38 十里木線	十里木線	B	B	—	60 東海バス	西海岸線	B	A	○
	萩丘都山線	A	A	—	39 河口湖線	河口湖線	A	A	—	61 水窪タクシー	パサラ峠線	A	A	—
	大塚ひとみヶ丘線	B	B	—	40 河口湖線	河口湖線	A	A	—	62 水窪タクシー	パサラ峠線	A	A	—
	気賀三ヶ日線	A	A	—	41 新富士線	新富士線	B	A	○		北還本線	B	B	—

※本年度の評価結果内訳は別添資料参照

富国有徳の理想郷—しずおか

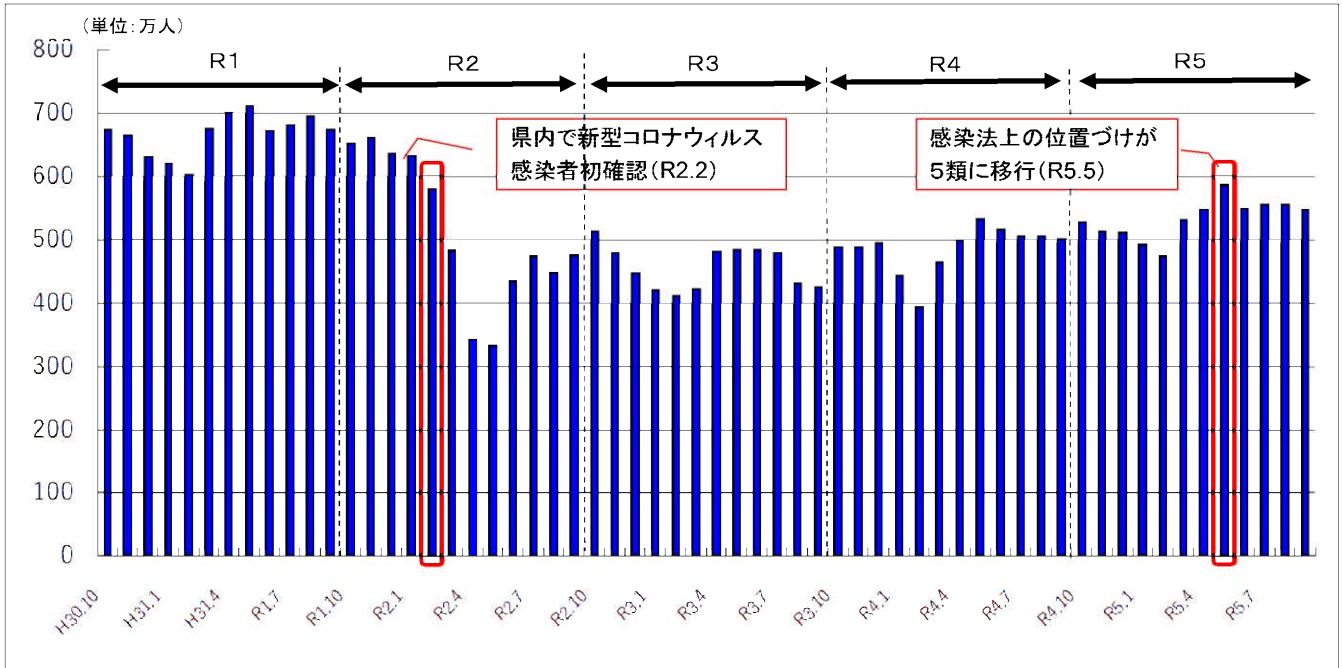
ふじのくに

7



県内の乗合バス利用者の推移

(H30.10～R5.9)



(静岡県地域交通課調査)

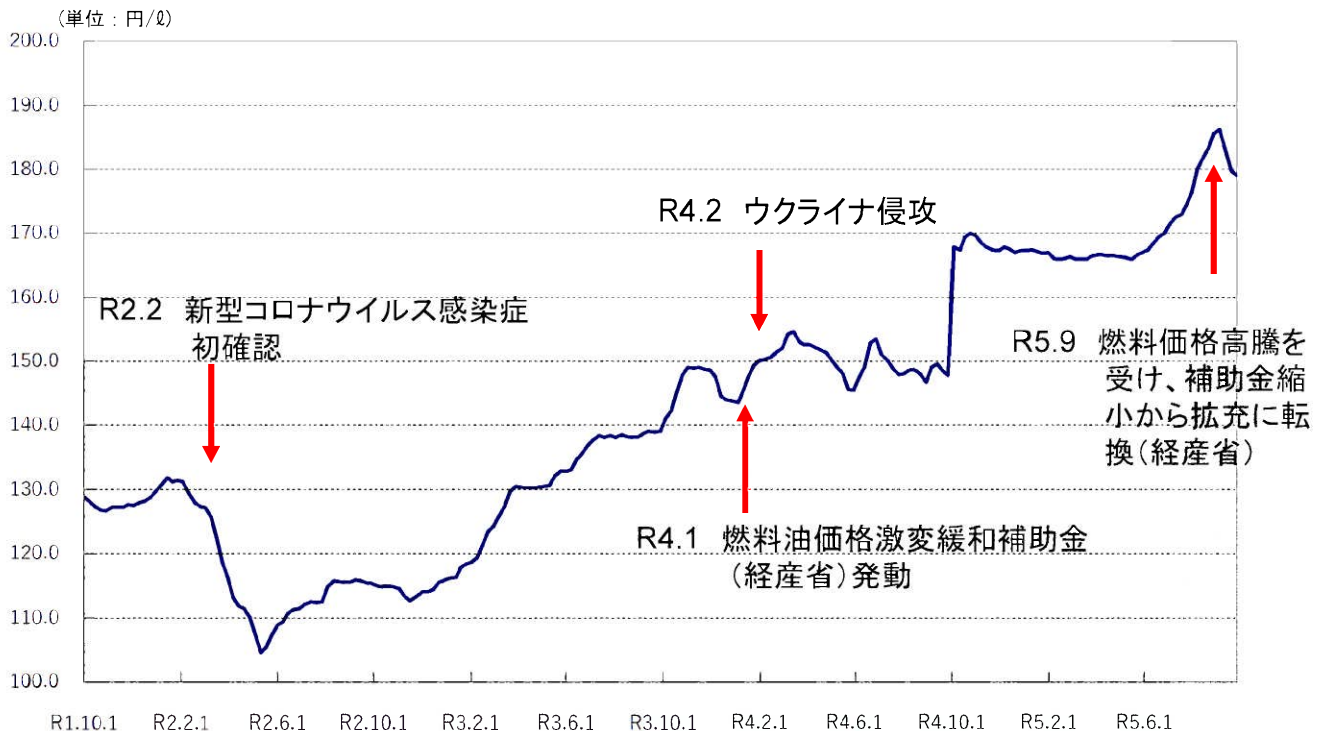
富国徳の理想郷—しずおか

ふじのくに

8

燃料価格など物価高騰の影響①

■ 県内の軽油小売価格の推移 (R1.10～R5.9)



(資源エネルギー庁調査をもとに県地域交通課作成)

富国徳の理想郷—しずおか

ふじのくに

9

燃料価格など物価高騰の影響②

■ 車両維持費の推移 (H30.1~R5.9)



(2020年基準消費者物価指数を元に県地域交通課作成)

富国有徳の理想郷—しずおか
ふじのくに

10

事業者による取組の例

区分	事例
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブ取組強化期間の設定 ・デジタルタコグラフを活用した指導で燃料費を抑制 ・燃料使用量の削減(車両搭載燃料を抑制) ・EVバスの導入による動力費の削減
利用促進策	<ul style="list-style-type: none"> ・バスロケーションシステムの導入 ・スマホ定期券の販売を開始 ・キャッシュレス決済機器の導入 ・市町と連携したバスの乗り方教室の実施 ・HPの多言語化によるインバウンド客の利用促進

富国有徳の理想郷—しずおか
ふじのくに

11

県内自治体による支援の事例

区分	事例
利用促進策	<ul style="list-style-type: none">・ 公共交通利用券の配布・ バスの日イベントの実施・ バスロケーションシステム導入費用の補助・ キャッシュレス決済機器導入費用の補助
物価高騰 対 策	<ul style="list-style-type: none">・ 車両維持費への補助・ 燃料費高騰分の補助



令和5年度地域間幹線系統の事業評価結果（概要）

1 事業評価の目的

事業評価は、静岡県生活交通確保対策協議会が定めた静岡県地域間幹線系統確保維持計画に位置づけられた補助対象系統について、事業の実施状況の確認や目標の達成状況等の評価を行い、市町が開催する地域公共交通会議等における評価内容に対する議論・検討の活性化や広く県民に内容を公表することによる理解の促進など、補助対象事業が効果的、効率的に実施されることを目的として実施している。

2 評価項目

項目		内容
前提事項 (点数無)	主な運行目的	利用実態等を含めた当該系統の運行目的
	増収策	路線維持のための増収策
	費用削減策	路線維持のための費用削減策
評価事項	運行回数	計画運行回数に対する実績運行回数を評価(3点満点)
	収支率	実績値を評価(収支率55%以上満点)
	乗車人員	計画値に対する実績値を評価(+5%以上満点)
	ネットワーク構成	鉄道等への乗換可能な拠点数を評価(上限20点)
	広域トリップ状況	バス利用者の市町を跨ぐ移動割合を評価(20%以上満点)
	キロ当たり経費	国上限単価と事業者単価を比較(国単価比-20%超満点)
	拠点等アクセス状況	バス停から半径500m以内の拠点施設を記載(評価点無)

【各項目に評価点を設定し、合計点に応じて以下のとおり評価】

評価	内容
A (52～79点)	地域間幹線系統として優れた役割を果たしている
B (26～51点)	地域間幹線系統として適した運行となっている
C (0～25点)	地域間幹線系統として改善に努力を要する

3 事業評価結果の概要

全体評価：B（参考：R3：B、R4：B、R5：A）

- ・ 評価対象系統全62系統中、A評価：37系統、B評価：25系統、C評価：0系統
- ・ 平均点数が52.1点（R4比+3.1点）であることから、全体評価を『A』とした。
- ・ 各系統の評価結果は別添「令和5年度地域間幹線系統総合評価一覧表」のとおり。

令和5年度地域間幹線系統総合評価一覧表

事業者名	系統名	評価項目① 運行回数 満点3点	評価項目② 収支率 満点18点	評価項目③ 乗車人員 満点6点	評価項目④ ネットワーク 満点20点	評価項目⑤ 広域トリップ 満点20点	評価項目⑥ キロ当たり経費 満点12点	点数 (A:52~79) (B:26~51) (C:~25)	評価				事業者 平均	全体評価	
									A	B	C	計			
山梨交通	1 富士京駅・イオン・星山台・薄原病院線	3	3	3	6	20	3	38					1	38.0	
	2 秋葉線(袋井駅前～澁州森町～気多)	0	6	3	11	20	12	52	○	○					
	3 秋葉中遠線(袋井駅前～袋井市民病院～澁州森町)	3	15	6	11	20	12	67	○				4	57.5	
	4 秋葉中遠線(大東支所～新橋須賀・新岡崎～袋井駅南口)	3	9	3	5	20	12	53	○						
	5 秋葉中遠線(横須賀車庫～新岡崎～袋井駅南口)	0	15	6	5	20	12	58	○						
遠州鉄道	6 浜北區大三方原線	0	9	6	17	20	3	55	○						
	7 磐田市立病院線(磐田市立病院～磐田駅～モリビルビル)	0	18	6	7	20	3	54	○						
	8 中ノ町磐田線(浜松駅～中ノ町～磐田営業所)	3	18	6	9	10	3	49		○					
	9 秋葉線(春野車庫～西番島駅～厚生会)	0	3	0	7	20	3	33		○					
	10 磐田大車線(山東～新開～磐田駅)	0	18	6	8	20	3	55	○						
	11 磐田大車線(ららぽーと経由)	0	12	3	9	20	3	46			○				
	12 掛塚みなみ台線(浜松駅～掛塚～豊浜郵便局)	0	18	6	9	20	3	56	○		○				
	13 内野台線(内野台車庫)	0	18	3	10	20	3	54	○						
	14 内野台線(サントリート浜北)	3	18	6	10	20	3	60	○						
	15 磐田市立病院福田線(磐田駅南口～豊浜郵便局)	0	12	6	5	20	3	46			○				
	16 引佐線	0	18	6	20	20	3	67	○						
	17 萩丘郡田線	3	18	6	10	15	3	55	○						
	18 大塚ひとみヶ丘線	0	18	6	13	0	3	40			○				
	19 気賀三ヶ丘線	0	18	6	15	20	3	62	○						
	20 奥山線	3	18	6	14	20	3	64	○						
	21 志都高宇布見線(浜松駅～つるが丘入口～山崎)	0	18	6	7	15	3	49			○				
	22 志都高宇布見線(浜松駅～蛭出橋～舞阪駅)	3	18	6	8	10	3	48			○				
	23 浜名線	3	18	6	8	5	3	43							
	24 掛塚みなみ台線(浜松駅～芳川～掛塚)	3	18	6	9	20	3	58	○						
	25 三ヶ丘線	3	12	0	9	5	0	29			○				
しずてつジャストライン	26 五十海大住線	3	9	3	7	20	0	42			○				
	27 焼津岡部線	3	12	6	5	20	0	46			○				
	28 藤枝吉永線	3	15	0	8	20	0	46			○				
	29 島田静波線(島田駅前～静波海岸入口)	3	6	3	9	20	0	41			○				
	30 島田静波線(島田市立総合センター～島田駅前～静波海岸入口)	3	6	6	13	20	0	48			○				
	31 藤枝相良線	3	9	6	12	20	0	50			○				
	32 菊川浜岡線	3	15	6	4	20	0	48			○				
	33 掛川大東浜岡線(掛川駅前～浜岡営業所)	3	3	0	7	20	0	33			○				
	34 掛川大東浜岡線(中東総合医療センター～浜岡営業所)	3	18	3	9	20	0	53	○						
	35 掛川大東浜岡線(掛川駅前～大東支所)	3	12	3	4	20	0	42			○				
富士急モビリティ	36 御殿場線	3	18	6	14	20	0	61			○				
	37 駿河小山線	3	15	6	11	20	0	55	○				4	57.2	
	38 十里木線	3	12	6	8	20	0	49			○				
	39 河口湖線	3	18	6	17	20	0	64	○						
富士急バス	40 河口湖線	3	18	6	17	20	0	64	○				2	61.0	
	41 新富士線	3	12	6	17	20	0	58	○						
富士急静岡バス	42 曾比奈線	3	18	6	8	20	6	61	○						
	43 大淵線	3	18	3	10	20	6	60	○						
	44 大月線(吉原中央駅～富士宮駅)	3	18	3	10	20	6	60	○				4	61.5	
	45 大月線(新富士駅～静岡県富士山世界遺産センター)	3	18	6	12	20	6	65	○						
	46 駿河平線	0	18	6	11	20	0	55	○						
富士急シティバス	47 須山線(三島駅～須山)	0	12	3	12	20	0	47			○				
	48 滝線	0	18	6	10	5	0	39			○				
	49 桜堤線	0	18	3	7	20	0	48			○				
	50 がんセンター線(沼津駅～がんセンター)	3	18	6	6	20	0	53	○						
	51 がんセンター線(三島駅～がんセンター)	0	18	6	8	20	0	52	○						
	52 大塚南線	3	9	6	7	20	3	48			○				
伊豆箱根バス	53 沼津大宮三島線	3	18	6	11	20	3	61	○				4	53.7	
	54 長岡伊豆三津シーパラダイス線	3	18	3	7	20	3	54	○						
	55 沼津静浦長岡線	3	18	6	7	15	3	52	○						
東海バス	56 石廊崎線	3	12	6	7	20	6	54	○						
	57 天城峠線	3	12	6	15	20	6	62	○						
	58 戸田線	3	15	6	7	20	6	57	○						
	59 西海線	3	12	0	11	20	6	52	○					6	56.5
	60 パサワカ線(下田駅～堂ヶ島)	3	12	6	13	20	6	60	○						
	61 パサワカ線(下田駅～宇久須)	3	18	6	13	20	6	66	○						
水窪タクシー	62 北湯本線	0	0	3	13	5	12	33			○		1	33.0	
計							平均	52.1	37	25	0	62			

[全体評価の理由]
・全62系統中37系統がA評価である。
・平均評価点数が52.1点である。

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート

(様式1)

事業者名 伊豆箱根バス株式会社

系統名(起点～経由地～終点) 長岡伊豆三津シーパラダイス線 長岡駅～温泉駅・宗徳寺前～伊豆三津シーパラダイス

計画策定年度 令和4年度 運行期間 R4.10.1～R5.9.30 評価年度 令和5年度

(1) 基本的事項

項目	基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価	備考
主な運行目的	事業者記載事項	—	別紙	A	A: 運行目的どおり適切に実施 B: 減便・系統短縮等、運行目的どおり実施されていない点があった C: 運行目的どおり実施されなかった(路線廃止)
増収策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有	事業者ごとの取組を記載
費用削減策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有	事業者ごとの取組を記載

(2) 各項目の評価

項目	評価基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価点数	評価	備考
運行回数	年間計画運行回数と実績運行回数を比較	(6,322.5)回 (17.3回/日)	(6,322.5)回 (17.3回/日)	3	計画数以上 3点 計画数未満 0点 (国土交通大臣が認める除外運行回数は除く)	計画(目標)は表2記載のもの
収支率	計画値に対する実績値	64.0%	78.8%	18	～29% 0点 30～34% 3点 35～39% 6点 40～44% 9点 45～49% 12点 50～54% 15点 55%～ 18点	
乗車人員	計画人員と実績人員を比較	126,730人	122,972人	3	5%超 6点 ▲5%以上5%以内 3点 ▲5%超 0点	
ネットワーク構成	他の系統の乗換可能なアクセス拠点(バス停等)の数	—	拠点(1)箇所 バス停(5)箇所	7	拠点(駅・BT): 1箇所2点 乗換可能なバス停: 1箇所1点 上限20点	主な拠点及びバス停を別紙に記載
広域トリップ状況	市町跨ぎの移動割合(H13.3.31現在の市町)(運行実績による)	—	31.5	20	～4% 0点 5～9% 5点 10～14% 10点 15～19% 15点 20%～ 20点	
公共施設・拠点施設アクセス状況	評価対象外 (バス停から半径500m以内に存在する学校(小・中・高・大・専門学校)病院(主なもので可)拠点商業施設・企業(主なもので可)その他(官公庁・駅等))	—	施設名称		—	
キロ当たり経費	補助対象年度の前年度の地域キロ当たり經常費用単価(静岡・山梨ブロック)との比較	—	413.24円	3	単価を上回った 0点 単価～▲5% 3点 単価▲6～▲10% 6点 単価▲11～▲15% 9点 単価▲16～▲20%超 12点	431.62
合計				54	評価指標	A

A(52～79点): 地域間幹線系統として優れた役割を果たしている
B(26～51点): 地域間幹線系統として適した運行となっている
C(～25点): 地域間幹線系統として改善に努力を要する

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート(別紙)

(1) 基本的事項

項 目	内 容
主な運行目的	<p>沼津市の内浦・三津地区から伊豆の国市の伊豆長岡駅を結び2市を跨いで運行しており沼津市内の沿線には、伊豆・三津シーパラダイスをはじめ、内浦・三津地区に複数の観光・宿泊施設があり、生活利用の他、観光客の利用もごさいます。</p> <p>なお、伊豆の国市内の沿線には、伊豆長岡温泉・順天堂大学病院・伊豆の国市役所等、観光・宿泊施設、病院、公共施設が点在しており、観光利用も一定程度あるものの、多くは通勤・通学・通院等の生活交通として利用されております。</p>
増収策	<p>◆SNSを活用して運行状況や、沿線情報等のお知らせの配信◆企画乗車券の作成、更新◆ICカード利用促進(バス乗り方教室等で実体験)◆GTFS-JPデータの整備</p>
費用削減策	<p>◆運賃改定◆仕業数の見直しによる人件費の削減を実施◆アイドリングストップ強化◆有償・無償に係わらず事故の削減強化◆ダイヤ数の縮小にともなう減車</p>

(2) 各項目の評価

項 目	内 容
ネットワーク構成	<p>(主な乗換え拠点・バス停)</p> <p>【駅】伊豆長岡駅 【バス停留所】温泉駅・長岡総合会館前・宗徳寺前・三津郵便局・伊豆三津シーパラダイス</p>
公共施設 拠点施設 アクセス状況	<p>(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設)</p> <p>長岡南小学校・順天堂大学病院・マックスバリュ長岡店・伊豆の国市役所・長岡総合会館・内浦地区センター</p>

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート

(様式1)

事業者名	伊豆箱根バス株式会社		
系統名(起点～経由地～終点)	沼津静浦長岡線	沼津駅～長塚・長岡湯本～伊豆長岡駅	
計画策定年度	令和4年度	運行期間	R4.10.1～R5.9.30
		評価年度	令和5年度

(1) 基本的事項

項目	基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価	備考
主な運行目的	事業者記載事項	—	別紙	A	A: 運行目的どおり適切に実施 B: 減便・系統短縮等、運行目的どおり実施されていない点があった C: 運行目的どおり実施されなかった(路線廃止)
増収策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有	事業者ごとの取組を記載
費用削減策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有	事業者ごとの取組を記載

(2) 各項目の評価

項目	評価基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価点数	評価	備考
運行回数	年間計画運行回数と実績運行回数を比較	(8,805)回 (24.1回/日)	(8,805)回 (24.1回/日)	3	計画数以上 3点 計画数未満 0点 (国土交通大臣が認める除外運行回数は除く)	計画(目標)は表2記載のもの
収支率	計画値に対する実績値	76.5%	89.4%	18	～29% 0点 30～34% 3点 35～39% 6点 40～44% 9点 45～49% 12点 50～54% 15点 55%～ 18点	
乗車人員	計画人員と実績人員を比較	362,693人	389,320人	6	5%超 6点 ▲5%以上5%以内 3点 ▲5%超 0点	
ネットワーク構成	他の系統の乗換可能なアクセス拠点(バス停等)の数	—	拠点(2)箇所 バス停(3)箇所	7	拠点(駅・BT): 1箇所2点 乗換可能なバス停: 1箇所1点 上限20点	主な拠点及びバス停を別紙に記載
広域トリップ状況	市町跨ぎの移動割合(H13.3.31現在の市町)(運行実績による)	—	17.1	15	～4% 0点 5～9% 5点 10～14% 10点 15～19% 15点 20%～ 20点	
公共施設・拠点施設アクセス状況	評価対象外 (バス停から半径500m以内に存在する学校(小・中・高・大・専門学校)病院(主なもので可)拠点商業施設・企業(主なもので可)その他(官公庁・駅等))	—	施設名称		—	
キロ当たり経費	補助対象年度の前年度の地域キロ当たり經常費用単価(静岡・山梨ブロック)との比較	—	413.24円	3	単価を上回った 0点 単価～▲5% 3点 単価▲6～▲10% 6点 単価▲11～▲15% 9点 単価▲16～▲20%超 12点	431.62
合計				52	評価指標	A

A(52～79点): 地域間幹線系統として優れた役割を果たしている
B(26～51点): 地域間幹線系統として適した運行となっている
C(～25点): 地域間幹線系統として改善に努力を要する

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート(別紙)

(1) 基本的事項

項目	内容
主な運行目的	沼津市内の沿線には、沼津市役所・沼津市総合体育館・沼津簡易裁判所をはじめ、国道414号線沿いを運行していることから、商業施設や静浦小中一貫校などが点在しており、通勤通学・買い物等の地元住民の生活路線として、主にJR沼津駅までの移動手段としての利用が多く見受けられます。伊豆の国市内の沿線には、長岡中学校・長岡南小学校・伊豆長岡温泉・順天堂大学病院等、長岡地区の主要施設が点在しており、観光利用も一定程度ありますが、多くは通勤・通学をはじめ順天堂大学病院への通院や伊豆長岡駅までの移動手段にご利用されております。
増収策	◆SNSを活用して運行状況や、沿線情報等のお知らせの配信◆企画乗車券の作成、更新◆ICカード利用促進(バス乗り方教室等で実体験)◆GTFS-JPデータの整備
費用削減策	◆運賃改定◆仕業数の見直しによる人件費の削減を実施◆アイドリングストップ強化◆有償・無償に係わらず事故の削減強化◆ダイヤ数の縮小にともなう減車

(2) 各項目の評価

項目	内容
ネットワーク構成	(主な乗換え拠点・バス停) 【駅】JR沼津駅・伊豆長岡駅 【バス停留所】大手町・口野口・温泉駅
公共施設 拠点施設 アクセス状況	(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設) 沼津市役所・沼津市民文化センター・沼津総合体育館・沼津簡易裁判所・志下公会堂・静浦地区センター・江の浦中央公民館・多比公民館・長岡総合会館・沼津御用邸・順天堂大学静岡病院・長岡リハビリテーション病院・慈広会記念病院・瀬尾記念病院・静浦小中一貫校・沼津第四小学校・沼津第三小学校・長岡中学校・長岡南小学校・マミー沼津三園店・ジョイランド香貫・ジャンボエンチョー沼津店・マックスバリュ伊豆長岡店

市町名

伊豆の国市

系統名	取組内容
長岡伊豆三津シー パラダイス線	<ul style="list-style-type: none"> ・当該路線系統に特化した取組ではないが、福祉タクシー等利用助成券（バスやタクシー等の公共交通機関で利用できる助成券10,000円分）を高齢者等に交付することで、バスの利用促進を図った。 ・当該路線を含む市内の全バス路線図や時刻表等を記載した「くらしの公共交通まるごとマップ」を市内各駅などに配架することで、バスの利用促進を図った。 ・本市の将来の公共交通の在り方を市民に問い掛ける記事を市の広報紙に定期的に掲載し、広く市民に公共交通の利用の呼び掛けを行った。
沼津静岡長岡線	<ul style="list-style-type: none"> ・当該路線系統に特化した取組ではないが、福祉タクシー等利用助成券（バスやタクシー等の公共交通機関で利用できる助成券10,000円分）を高齢者等に交付することで、バスの利用促進を図った。 ・当該路線を含む市内の全バス路線図や時刻表等を記載した「くらしの公共交通まるごとマップ」を市内各駅などに配架することで、バスの利用促進を図った。 ・本市の将来の公共交通の在り方を市民に問い掛ける記事を市の広報紙に定期的に掲載し、広く市民に公共交通の利用の呼び掛けを行った。 ・安全性に問題のあるバス停留所を解消するため、事業者と協力して移設等の対応を行い、安全性の確保及び快適性の向上を図った。

(*)当該系統に対するMMなど利用促進に関する取組や金銭的負担等について具体的に記載